

1 研究の概要

■調査研究委員会活動方針

将来の予測が困難な現代は、その特徴である変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の頭文字を取って「VUCA」の時代とも言われており、子どもたちを取り巻く社会環境は年々大きく変化している。学校教育においては、昨年度新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に引き下げられ、通常のエデュケーションを取り戻してはきているが、この感染症により、人々の生活・行動・考え方・価値観などが大きく変化し、今も大きな影響を受けていると言わざるを得ない。

このような状況の下、令和5年6月には「持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」をコンセプトとする第4期教育振興基本計画が閣議決定された。自ら未来を切り拓く人材を育成するという使命を担う教育の役割や重要性は一層高まっている。学校は変化の激しい社会の未来を見据えながら前進し続け、これからの時代を生きていく子どもたちに必要な資質・能力を確実に育成していかななくてはならない。

また、本県においても「一人一人の個性が輝く、ふくいの未来を担う人づくり～子どもたちの『夢と希望』『ふくい愛』を育む教育の推進～」を基本理念とする「福井県教育振興基本計画」が策定されており、ふるさと福井への誇りと愛着をもち、自ら学び考え行動する力を育む教育が求められている。

そのような中、「GIGA スクール構想」の推進等新しい時代に即応した教育や人権教育や道徳教育の推進等心の教育の充実、質の高い教育活動を実現するための教職員の資質・能力の向上、特別支援教育の充実、教師が子どもたちと向き合う時間の確保など対応すべき重要課題が山積している。

県内各小学校において、校長は現状を深く認識し、教育改革の動向を的確に把握しながらリーダーシップを発揮し、確かな計画と実行力をもって学校経営の更なる充実に努めていかなければならない。

本委員会では、今日的な学校教育の課題、学校経営上の諸問題など社会の変化に即応した学校の取組について調査研究し、対策に資することとする。

■調査研究内容

- 1 全国連合小学校長会令和5年度研究紀要より項目を抜粋して調査研究を行う。令和6年度福井県のデータと、令和5年度における福井県のデータならびに全国連合小学校長会「研究紀要」のデータを比較した調査研究を行う。
- 2 会員からの要望による調査項目について、追加して調査研究を行う。
- 3 福井県全体の調査研究をもとに、各郡市の課題や諸問題について調査研究を行う。

■調査研究テーマ

「子どもたちの『夢と希望』『ふくい愛』を育む教育を推進するための校長の役割Ⅲ」

■調査項目

- 1 県民の信託に応える小学校教育の在り方等に関する課題
- 2 教員の資質・能力の向上と子どもと向き合う環境づくりに関する課題
- 3 少人数学級の推進、外国語科・外国語活動への対応等、新たな教育改革・教育施策に関する諸課題
- 4 教育課程の編成や学習評価の改善に関する課題
- 5 管理職の職能に関する課題
- 6 特別支援教育の推進に関する課題
- 7 児童の問題行動などに対する生徒指導推進上の課題
- 8 今日的な課題に即応した学校づくりに関する課題

■調査対象・方法

- 1 調査対象 福井県全小学校 185 校 [国立 1 校・市町立 184 校]
- 2 調査期間 令和6年6月1日～6月30日
- 3 調査方法 質問紙による回答 [各設問の選択数は、全国連合小学校長会調査と同数]